

二ノ三三 和歌

解説 平安時代、貴顕の笠置寺参詣が多くなるにつれ、笠置寺や笠置山が和歌に詠われることも多くなった。

原文

（

藤原定家

ちらすなよ かさぎの山のさくら花 おほふばかりの 袖ならずとも

夫木和歌抄八三一七

藤原俊成

さみだれは 水上まさるいづみ川 かさぎの山も くもがくれつつ

夫木和歌抄一〇八九二

曾祢好忠

河上や かさぎの岩屋 けおぬるみ こけをむしると ならすうばそく

夫木和歌抄一四三二八

藤原為家

ながめばや かさぎのひかりさしそへて いまはといでん あかつきのそら

為家千首八〇八

登蓮法師

名にしおはば 常はゆるぎの杜にしも いかでかさぎの いはやすくぬる

歌枕名寄一三四四

藤原定家

しらせばや かさぎの山のさくら花 おほふばかりの 袖ならずとも

歌枕名寄一三四五

藤原為忠

あかつきの かねにかたぶく月影は かさぎのやまに いろかりけり

為忠集一七三

藤原光経

もるかなほ かさぎのやまの春の雨 こけのころもの いとどしをるる

光経集四四八